

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方修正、 は下方修正)

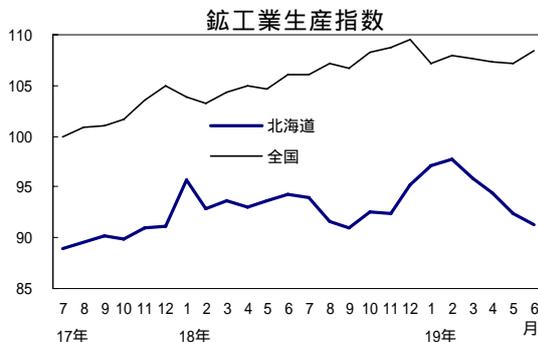
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 19 年 5 月)	今回 (平成 19 年 8 月)	
生産	緩やかに増加	<u>おおむね横ばい</u>	
住宅建設	大幅に減少	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を下回っており、水産業の水揚量は前年を上回っている。生乳生産は、牛乳等向け、乳製品向けともに若干増加したが、道外からの移入量がそれ以上に増加したため、総量では 963,490t と前年比 0.8% 減となった。水産業(主要 8 港)は、ほっけが前年を下回ったが、するめいか及びさんまの水揚量が前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。食料品・たばこは、精米品が伸びたことから増加している。パルプ・紙は、印刷用紙(塗工)が駆け込み需要により好調だったが、設備の定期修理の影響から減少している。電気機械は、携帯電話向け無線通信装置やゲーム機用マイクロチップの受注が好調なことから、増加している。窯業・土石は、道路及び護岸用コンクリートや、農業肥料向け石灰の受注が低調だったため、減少している。金属製品は、公共工事の減少や携帯電話基地局の新設工事が一服したことから減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
食料品・たばこ	26.5	0.7	2.5	0.8	1.0
パルプ・紙	12.1	3.8	2.4	0.8	5.5
電気機械	9.5	8.2	2.4	2.3	1.1
窯業・土石	9.0	1.5	0.1	1.0	9.4
金属製品	9.0	3.5	16.3	15.7	22.6
鉱工業	100.0	3.7	4.3	4.2	5.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

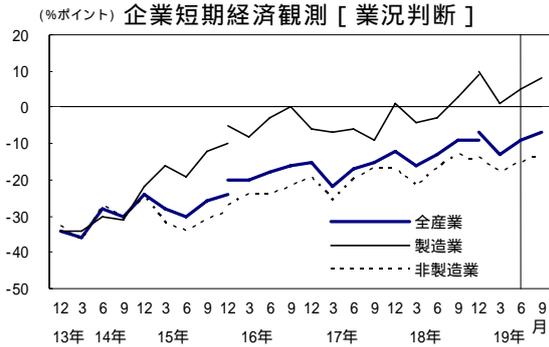
2. 4~6 月期は速報値。

(備考) 1. 12 年 = 100、季節調整値。

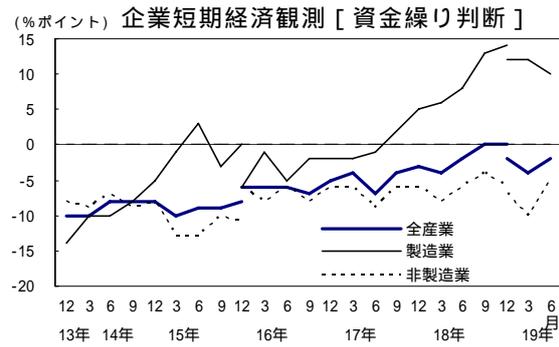
2. 平成 19 年 6 月の北海道は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

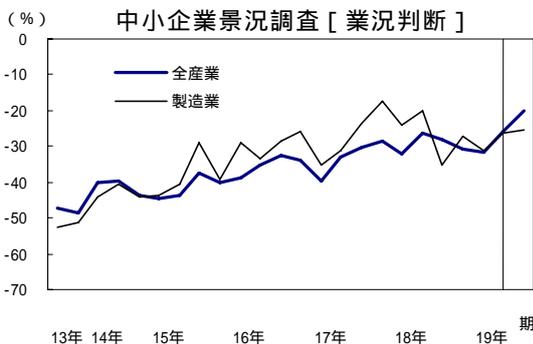
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年9月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

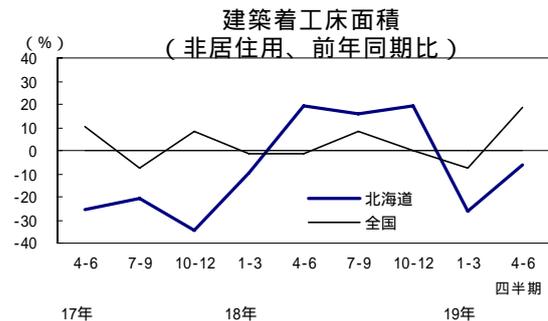
「コンテナ等の雑荷を主体とした輸出入貨物は堅調に推移しているものの、木材、鋼材等の動きがここに来て鈍化してきた。ただ、石炭は堅調な荷動きを示している(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

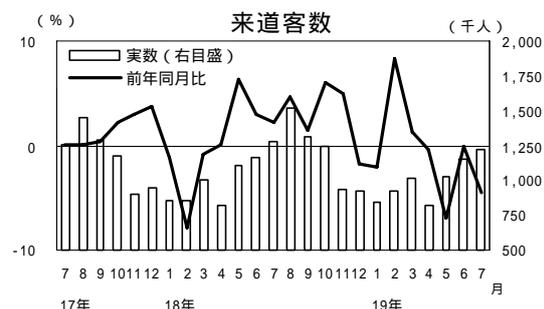
	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	9.3(0.9)	10.4(11.5)
製造業	20.0(3.6)	27.8(28.6)
非製造業	3.2(2.8)	2.3(3.5)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は堅調に推移している。

来道客数は、5月はゴールデンウィークの曜日配列、前年の航空会社新規参入に伴う運賃引き下げ効果の反動減、コンピュータシステムトラブルによる航空機の欠航により減少した。7月は東京、名古屋方面からの航空旅客が減少したため、前年を下回った。4月、6月は前年並みとなった。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

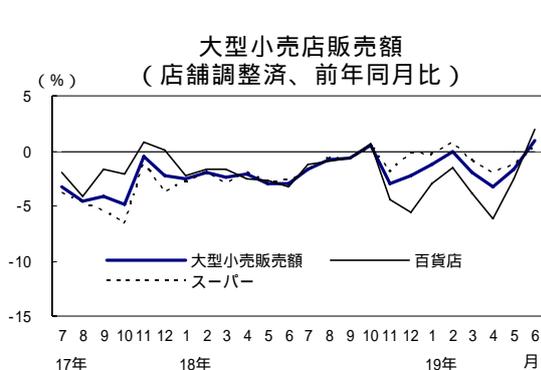
百貨店は、4月は、低温の日が続いたことから、春・初夏物を中心に衣料品の動きが鈍く、前年を下回った。5月は、ゴールデンウィークに合わせた催事が好調だったものの、土曜日が1日少なかったこと、中旬以降の著しい気温の低下により、7か月連続で前年を下回った。

6月は、天候に恵まれセールの前倒し効果もあり、夏物衣料品が好調で8か月ぶりに前年を上回った。なお、日本百貨店協会によると、北海道地区の7月の売上高は、前年同月比で5.2%減となっている。

スーパーは、野菜や果物などの生鮮食料品の動きが良かったが、衣料品が天候不順の影響で不調だったため、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

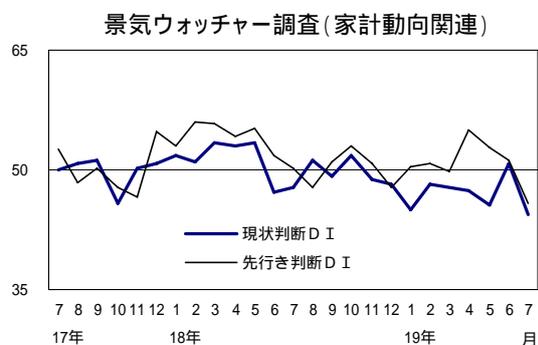
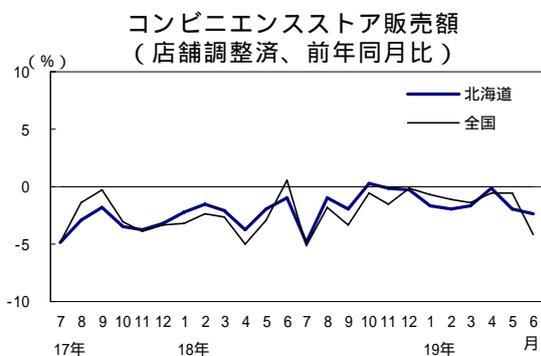
「夏物セールの立ち上がりが6月末日に早まったため、7月は反動減があった。またセール品も売行きに偏りが強かった。売れ筋は早い段階で在庫がなくなったため、売上に貢献しきれず、人気のない商品は値下率を引上げて単価を下げても動きが鈍かった。客はセール品であっても、購入の際には以前にもまして慎重な判断をしているようだ(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月
大型小売店	1.0	1.6	1.2	1.4
百貨店	1.0	3.4	2.9	2.3
スーパー	1.1	0.6	0.3	1.0
コンビニ	2.6	0.1	1.7	1.6
景気ウォッチャー	49.5	49.5	47.0	47.9

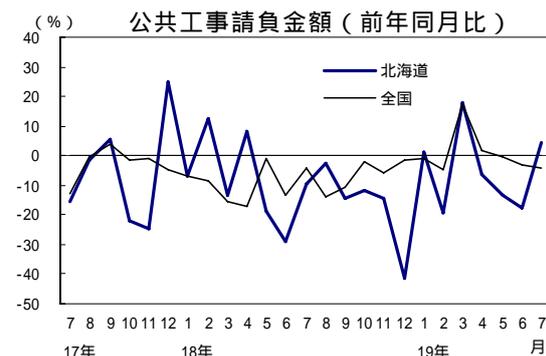
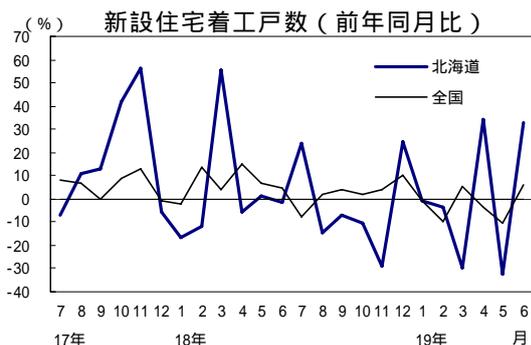
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

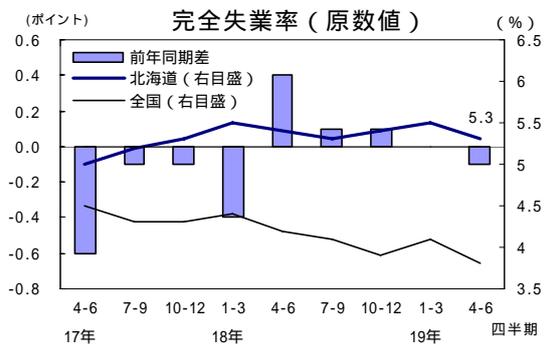
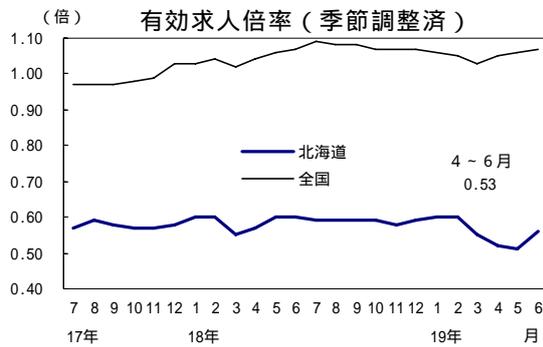
持家は前年を下回ったものの、分譲が上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準である。



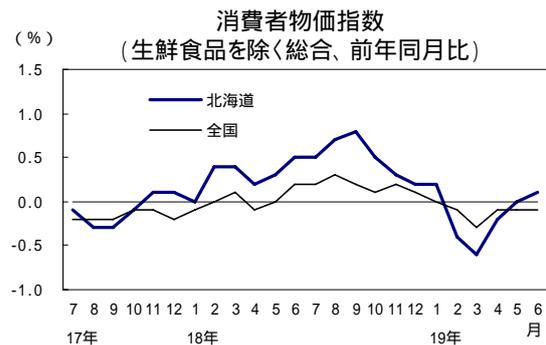
景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

「今年の春と比べて、求人掲載件数に占める正社員の割合が減少している。現在、全体の1割を下回っている状況であり、逆にアルバイトやパート、請負等の非正社員の割合が増加傾向にある(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数は増加している。
(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月	19年7月
倒産件数	112	132	159	172	52
(前年比)	21.1	4.3	11.2	20.3	20.9
負債総額	567	1,687	497	431	106
(前年比)	34.7	349.1	5.6	6.0	70.6



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 国内ツアー客の入込が減少している。旭山動物園ブームが一巡したのか、道内周遊コースが変化したのかは不明だが、宿泊客数は低調に推移している。ここしばらく上昇機運にあった消費単価もやや勢いを落としている(観光型ホテル)。

<先行き>

- 地域の自動車市場は前年割れで推移している。当社は新型車効果で前年を若干上回ったが、今後は中越沖地震によるメーカーの生産遅れが影響しそうである(乗用車販売店)。

景気ウォッチャー調査(合計)

